

藤元議員 それでは、3点について質問させていただきます。最初に山田地区残土処理場の管理についてお伺いします。この件については、過去に私を含めて3人が質問しています。平成29年6月議会では、一山議員から、土砂災害を心配している住民の声があるが大丈夫か。そういう質問がありました。当時の福井町長からは、「徳島県林地開発許可基準に基づき、基礎基盤の支持力、すべり安定計算、表面排水計算などを行い、地下排水対策も講じていることから安全上支障がない」との答弁がありました。土砂を積み上げた場合、土質、高さ、圧縮の程度などによって違うとは思いますが、ある程度以上の水分を含むと崩壊の危険性があるので、そうならないよう排水溝を縦横に設置したり、法面の角度、地下水の排水などを考慮した構造の処分場に行っているということだと思います。また、令和3年9月議会に行った私の質問に対しては、先ほどの答弁に加え、最終的な残土処理量は34万5千m³であるということ、そして管理については、災害が予想される前後、また、天気の状態によっては、月に何回かの目視点検等を実施して周囲等の安全を確保しているとの答弁でありました。ただ、私が写真で示したように、既に今は取り除かれています。一部、暗渠管、排水溝に大きな切り株が塞いでいたという事実も明らかになりました。近年、地球温暖化の影響で、台風の大型化、線状降水帯発生による局地的な大雨による山腹崩壊、堤防の決壊による洪水などが全国各地で起こり、多数の人命・財産が失われています。このような事態を受けて気象庁におきましても、2年前から線状降水帯発生の予報を出すようになっていました。本町の場合は、昭和51年10月18日に牟岐町のみ降ったと言われる大雨により、内妻川の土手の崩壊、海部病院1階の浸水、そして床上浸水357件、床下浸水215件など、大きな被害がありました。幸いなことに、それ以降、大きな自然災害は起こっていません。ただ近年、地球温暖化の影響だと思われることが本町でも起こっています。大雨による山腹崩壊であります。私の知っているだけでも、出羽島で2箇所、無線局の近くで2箇所、内妻での旧国道の一部路肩崩壊、現在通行止めになっている水落での町道崩壊などがあります。いずれも、ここ10年くらいの間に次々と起こっており、今後、このような大雨による災害が引き続き起こり、その前兆がこのような山腹崩壊という形であらわれているのだと認識して間違いないと思います。以前の質問のときにも紹介させていただきましたが、令和3年7月3日、熱海市で土石流災害が発生しました。あの災害で、28名が死亡、住宅98戸が被害にあいました。その原因として、月平均の1.7倍の降雨量が僅か3日間で降る豪雨であったということ。業者による不適切な盛り土が行われ管理も不十分だったこと。行政の対応にも問題があったことなどが指摘されています。現在、被害者の遺族による土地所有者に対する提訴がされ裁判中であります。山田地区残

土処理場は、牟岐町の責任で造ったものであり、そのことにより住民に被害が及ぶということは絶対にあってはなりません。今まで答弁されてきたように様々な計算の上で処理場が完成し、安全上心配ないとすれば、後は管理を確実にやらなければならないということでもあります。そこで改めて、処理場の管理についてお伺いします。平成25年9月20日付けで条例・規則が制定されていまして、管理・運営は町長が行うことや、1㎡当たり処理料金は2千円などと定められています。私は、あの場所での残土処理場は終了したとの認識でいましたけど、今後、残土を更に受け入れる予定があるのかを最初にお伺いします。次に、今の質問とも関連するのですが、最上部の広場は、そのまま放置するのかということについてお伺いします。というのは、現在、5分割の工事が終わった段階だと思うのですが、最上部の広場の状態は、4分割が終わった段階にはあった、周囲の排水溝もありませんし、山から流れて来る水を遮断する排水溝もありません。したがって、最上部には、山からの水がそのまま流れ込んでいまして、溜まった水は、一部は浸み込み、後は、運搬道路を下流に流れ出ているという状況であります。今後、更に土砂を持ち込み最終的には排水溝等の整備を行うのなら問題がないかも知れませんが、そうでないならば、山からの水が流れ込まないように、また、最上部に水が溜まらないよう、周囲に排水溝等を設けるなどの対策が必要であると思いますが、どうお考えなのかお伺いします。次に、日ごろの管理は、先ほど紹介したようにやられているとのことですが、現場に行きますと何処に排水溝があるのか分からない状況が一部にあります。特に、山から処理場へ流れ込む水が遮断されるよう設置されている排水溝が草木に覆われ、点検さえ容易にできない状態は改善しなければならないのではないのでしょうか。草刈りもしていただいていると思いますが、草刈りの頻度を上げるなどして、せめて排水溝がどのような状態にあるのか確認できるようにしていく必要があると思いますが、どのように考えているのかお伺いし、次の質問に移ります。次に、出羽島重伝建事業に関連して質問させていただきます。重伝建選定に向け、平成25年から28年にかけて出羽島の建造物や景観調査、住民及び島外関係者に対する説明会や視察などが行われてきました。そして、そのような経過のなかで、平成27年9月には条例の制定。平成29年2月23日には、出羽島が重要伝統的建造物保存地区に選定されました。選定は、徳島県内では3地区目であり、漁村集落としては、全国2地区目だそうであります。選定に向けた出羽島での説明会においては、「空き家が多いなかで、建物の修理をすることに現実味が感じられない。修理したところで管理できない。そもそも人が居ない」などの否定的な意見や、「このまま何もしないと、結局、出羽島がダメになる」「島の歴史を大事にして未来に伝えていかなければ、自分たちが将来若い人に笑われることにな

る」などの積極的な意見も出されたそうです。また、島外に出ている方々からは、「建物や景観だけでなく、人に来てもらう取り組みが必要ではないか」などの意見も出たそうでもあります。重伝建地区として選定されますと、例えば、家屋の改修等を行う場合は、一定の補助金が出ることとなりますが、教育委員会や町の許可がいちいち必要になりますし、瓦の色、瓦の種類、屋根の勾配、外壁の色、種類など様々な点で制約を受けることになり、出羽島の住民のみなさんの決断は大変重いものがあったのではないかと想像されます。したがって、教育委員会や町は、出羽島住民のみなさんの重い決断をしっかりと受け止め、要望などについてはできるだけ応えていくべきだと思います。今年の1月13日、議会として出羽島の視察と島民の方々との懇談を行いました。そのときに改修を終わった家屋の壁に黒いカビ状の斑点があることに気が付き、教育委員会は知らないかもしれないと、そのとき撮った写真を提供しました。その後、気になって3月議会でもその件について質問しました。そのときの答弁は、「早急に対応する」とのことでありました。実は、今月の5日、全協の前の日ですが、出羽島に行ってきましたので、その後どうなっているのか視察をしてみいました。結論を言いますと、前回行ってから5か月後になりますが、前回のときよりカビ状の黒い斑点は、はるかに広がっています。改修してから10年、20年経っているものなら、ある程度の劣化もあるかと思いますが、わずか数年であんなことになるとは誰も想像していなかったのではないのでしょうか。このまま放置しておけば、もっと酷い状態になることは明らかです。原因の解明はできたのでしょうか。今後、どのように対応するのかお伺いし、次の質問に移ります。次に、本町における保小中一貫連携教育についてお伺いします。本町の場合は、必要だから始めたというより、地震津波対策として、中学校の敷地内に保育園、小学校を移転したことから、一貫教育が本格的に始まったと言っても良いと思いますが、移転が終了し、保育や授業が始まったのが2013年4月からですから、今年が10年の節目の年ということになります。滅多に、保育園や学校に行く機会がありませんが、たまに行くと、子どもさんが元気な声で挨拶してくれるので、何か恥ずかしいというか、こちらの心が洗われるような気がして、先生方の努力がこんな形で現れているのではないかと感じています。この10年間、「たくましく やさしく ねばりづよく そだて むぎっこ」をスローガンに、「夢と志を持った逞しい子どもの育成」を目標に、保小中連携一貫教育をされてきたと思いますが、今日までの成果と今後の課題についてお伺いし、質問を終わります。

喜田議長 柘富町長。

(杣富町長 登壇)

杣富町長 私からは、藤元議員の山田地区残土処理場の管理についてのご質問にお答えします。残土処理場の管理については、適切に搬入された残土を使用し、各種法令や基準等を設計に反映して、排水計算を行い、表面排水路、暗渠排水路等を施行した残土処理場の安全性を保つため、管理点検していくことが重要であります。ご質問の『山田残土処理場の今後の受入れ予定』については、新たに八坂残土処理場を8月末、完成予定で整備しているため、山田残土処理場で、受入れ予定はありません。『最上部の排水溝などの設置』については、残土の搬入搬出があれば、大型ダンプによる通行で道を痛めるため、進入路の上部は、未舗装で残していましたが、八坂残土処理場の受入れ開始後は、山田残土処理場で処理予定がないため、整備完了に向けた工事として、排水溝や未舗装進入路の舗装、横断側溝等の設置工事を進めてまいります。点検については、渇水期に排水溝の流れを阻害するような大きな障害物が無いか目視点検をしていますが、議員ご指摘のとおり、山田残土処理場は、平成30年3月の第5分割工事の竣工から5年経過し、雑草の繁茂や樹木が生えきており、点検がしづらい状況となっていましたので、点検がしやすいよう排水溝周りの除草をしているところです。各地域で草刈り作業等の出役が高齢化による人員不足により、これまでのように協力が得られなくなった所があり、直営で行う作業場所が増加していますが、点検がしやすいよう草刈り等の維持管理をしてまいります。以上です。

喜田議長 今津教育長。

(今津教育長 登壇)

今津教育長 藤元議員の「本町の保小中一貫教育の成果と課題」についてお答えします。平成25年度に始まった市宇ヶ丘学園は、「夢と志を持ったたくましい子どもの育成」を目標に、保小中一貫教育を実践してきました。そして保小中の教職員が、知育・徳育・体育（知徳体）の三部会で「学びのプラン」を作成し、教職員が校種の特性を理解し合い、共通認識を持って子どもたちの健やかな成長に関わってきました。この10年間の成果としては、ハード面では、学園運営の効率化が挙げられます。小学校と中学校は、

廊下でつながれた併設型校舎の利点を活かし、特別教室等を共用したり、学校施設を有効に活用するなど、運営上の経費の削減がなされています。ソフト面では、保小中はタテの一貫教育として、互いに交流学习を実践していますので、園児・児童・生徒・教職員の交流の機会が必然的に多くなります。そこで教育活動全般において、それぞれの子どもたちの実態に基づく指導方法を教職員が身近に体験しながら、理解することができています。また小中では、「乗り入れ授業」で、中学校教員による小学生の学習指導や、小学校教員による中学生の授業支援などにより、教師側では長期的な視野に立った連続性のある教育実践が可能になっています。子どもたちにとっては、小学生は中学生の姿に、中学生は小学生の手本となるよう共に学び合い、学校行事等では学校の枠を超えて協力し、交流を深めることで連帯感が育っています。もちろん保育園も同様のことが言えると思います。また、これまで校種それぞれ別々に授業や活動に協力・支援してくださっていた地域の皆様方にも「むぎっこサポーター」として一貫教育に携わっていただいています。さらには「学びのプラン」のブラッシュ・アップで、知徳体部会の目標が更に具体化され、園児・児童・生徒の指導支援に活かされています。課題としましては、少子化がもたらす学校運営における変化への対応が挙げられます。これは市宇ヶ丘学園設立の最大の理由でありました。これに向けて努力は続けていますが、コロナの影響等もあり、ここ数年は地域の方との交流や学校行事が一部制限されるなど、十分な実践ができていないということがありました。そして徳島新聞にも取り上げられていたように、牟岐町の子どもたちの減少率は、この10年間で49.1%減と半減し、県内で最も高い状況にあり、予想以上に深刻な状況となっています。児童・生徒の減少に伴い、教職員数の削減も予想されることから限られた人材の中で目標とする児童生徒の育成のために、いかに最大の成果を上げていくかを考えていかななくてはなりません。また、同一敷地内の一貫教育活動は、小一プロブレム・中一ギャップが少ないというメリットはありますが、それはまた環境の変化刺激が少ないというデメリットにもなります。日頃から人的にも物理的にも慣れた環境で生活することは、子どもの自立を促し、創造性を育むという点では必ずしも良いとは言えません。「夢と志を持ったたくましい子どもの育成」のため、地域の教育資源（人・もの・こと・場所・時間等）の一層の活用を図り、地域とともにある学校づくりをこれからも進めていきたいと思っています。重伝建事業については、教育次長が説明します。以上です。

喜田議長 枳富教育次長。

(枘富教育次長 登壇)

枘富教育次長 それでは、私の方から藤元議員ご質問の「改築・塗装後に短期間で色褪せ、カビ状のものが建物全体に広がっている原因の解明と今後の対応」について答弁させていただきます。まず、原因については町内の建築業者に見てもらったところ、カビであるとのことでした。カビは、木材を乾燥させずに施行した場合や日当たりの悪い立地場所等の自然環境で発生します。カビは塗装面や木材表面に発生する2つのケースが考えられ、塗装面であればこすって落とせる可能性もありますが、木材表面であれば薬剤で落とすしか対処方法がありません。今回の件は重伝建事業であるため、木目を見せるクリア系の塗料で塗装しており、木材表面に発生したカビも透けて見えてしまいます。更に防腐能力が低い塗料を使用していたため、カビの発生要因の一つとなっています。今後は町内の塗装業者の方に見てもらい専門的な対応を検討してまいります。以上ですよろしく申し上げます。

喜田議長 藤元議員。

藤元議員 この間、議員に処理場に行ったことありますかと聞いたのですが、あまり行っていないようです。実は、この間の6月の2日、大雨が降ったときに、私気になっていたものからです、見に行ってきました。現状はこういうことです。先ほどもお話ししましたが、処理場に水が流れ込んで来ないように普通は側溝を整備するのです。今まで整備していました。しかしその5分割を終わった時点でそういう側溝もなくなっていますし、周囲を盛土して囲っているという感じなのですが、かなり雨が強いときは、ここから漏れ出して法面に流れ出しています。だからこういう状況で放っておくと非常に危険な状態になるので、5分割が終わって5年になると言っていましたけど、受け入れの予定がないのだったら、これは早くした方がいいと思います。事故が起こってからどうこう言ったら遅いので、先ほどやるというお話でしたけど、早急にお願いしたいと思います。これは、さっきも言いましたが、6月5日、全協の前に行ってきているのですが、凄く広がっています。このまま放置したら真っ黒になると思います。だから、

さっき板目を見せるとかいう話がありましたけど、もう真っ黒なカビを見せると、来てくださる方にね。そういうことになります。これも既にあまり酷いというので、1階だけ塗り替えているお宅もありますね。1回、また見にいつていただいたらと思いますけど、とにかくそのまま放置したらとんでもない。だから、まだほんの数年でしょ。これはおそらく塗料の問題があるのだと思うのですがね。さっきあったように透明であるとか、そういう塗料しか、薄い茶色とか、板目が見えるような塗料を使わないといけないということになっているのですが、なっているのだけど、ちょっと濃く塗っているところは、あまり見られないのです。もしかしたら少し防腐剤とか入っているのかもしれませんが、とにかくこのままで本当にほんの数年でこんなような状態になるのは困ると思うので、早急に対応するということですが、早急に対応したいということをお願いして質問を終わります。